

# チャレンジ 企業

平成23年度姫路市ものづくり  
開発奨励事業適用企業紹介

## オールマイティ

●本社/姫路市花田町 ●設立/平成19年

## 消費者ニーズに対応する レザーグッズの革新 「製品染めの手法を施した革製品」



水瀬 隆行 代表

革への愛情たっぷり、  
身振り手振りで熱く語ります



①思わず触りたくなる革のジャケット。一点一点の色の深みやシブ、縮み具合がウィンテージ感を漂わせている②エコレザーは厚さ0.3ミリの極薄素材。なんと折りツルまで折れてしまう③革に吹き付け仕上げを施す職人。全ての工程を自社でできるのも強み

## 次世代を見据えた新しい革づくりへの第一歩を 地元クリエイターと一緒に踏み出す

「姫路の革屋 オールマイティ」の水瀬代表に見せてもらったジャケットは柔らかく、革独特のゴワつきがない。体のラインにぴったりと沿うようなフィット感に驚いた。これが受賞対象となる「製品染め」の手法を施したジャケットだ。

この手法は非常に難しいうえ、縫製や革の縮み方、染色する機械など問題が多く、製革所(タンナー)業界では商品にならないと敬遠されていた。しかし、水瀬代表はもともと90年続く製革所の3代目。日本でも有数のカーフ製造を手掛ける技術と機械を備えていた。カーフは生後6か月以内の子牛の革で、薄手できめが細かく、革素材としては最上級ランク。カーフをなめしの段階から製品の仕上げまで、一貫してできるのは日本ではここだけという技術だ。

この技術力をいかし、今まで不可能といわれた製品染めに挑む。きっかけは「縫製後の製品染色加工してほしい」というデザイナーの声。これまでデザイナーがタンナー側と直接取引することは少なく、染色された革を選ぶだけだった。しかし、これからのタンナーはデザイナーやクリエイターら作り手側と直接取引を行い、相互理解を深めることで、デザイナーやブランドにとって満足度が高く、スピーディーな製品づくりができると思ったのだ。それが結果的に個性やオリジナリティを求める消費者のニーズを満たすことにもつながる。革製品における新しいビジネスモデルの構築だ。

同社は製品に傷がつかないように特注したステンレス製小口ドラムを用い、試作を繰り返して、ようやく納得のいく製品を作り上げる事に成功した。また、従来のクロムなめしとは違う天然植物タンニンを使った再なめしで、赤ちゃんの肌着にも使えるようなエコレザー「姫山水」を開発した。水瀬代表は「姫路の皮革産業を活性化させるためには、これまでの一次製品中心ではなく二次製品にまで商品化していくことが必要になってくる」と考えている。

現在、3月にイタリア・ミラノ市で開催されるレザーの展示会に出展する準備を整えている。「姫路の若手クリエイター3人に商品づくりを依頼しています。すぐに需要につながるとは思えませんが、まずはクリエイターらと一緒に商品づくりに取り組み、一緒に成長したい。姫路の革製品を世界に認めてもらうきっかけになれば」と期待を込める。不可能を可能にする同社のコンセプトは「YESから入るものづくり」。チャレンジ精神で業界の新しい扉を開こうとしている。



11月に開催された皮革総合展「レザー・フューチャー inひめじ」に出展。オールマイティのブースには色鮮やかなジャケットやブーツ、鞆、小物がずらりと並びました